

ジョン神父（クラレチアン宣教会）

旧約聖書のイスラエルの世界では、女が夫をなくしたら、その女と子供たちは白い服をかけて悲しみます。その女、やもめはベールをかぶり、ただ座って、料理などをしない、一切洗わない、化粧をしない、それが自分たちの悲しむ姿を表しています。

バルクの預言によって、ユダヤ人たちの状況が悪化し、エルサレムの聖殿が滅ぼされ、多くの不幸なことが起こりました。子供たちが母親から離れ離れになりました。そして、何年間過ぎたら、神様はイスラエルをまた新たにします。このことは神様の喜びのニュースだと思います。これは神様の約束なので、神様は自分の民を見捨てられない。

“すべての高い山、果てしなく続く丘は低くなれ、谷は埋まって平地になれば、と神は命じられた”

“このことは、イスラエルの希望が生まれた、皆が行く道を示してくださることだともわかります。神様は自らの慈しみと義をもって栄光の輝きをあらわし、喜びのうちにイスラエルを導かれる” 神様がすべてのことを導かれます。神様はユダヤ人の光、ユダヤ人を見捨てられない。神自身の子供たちをもう一度母親の傍に集められます。

人生の中で苦難を経験するとき、わたしたちは神様に向かって祈りで何かを求めることができます。第二朗読、使徒パウロのフィリピの教会への手紙の中では、神の意図はご自分の愛と恵みで輝き証をした人にわたしたちを造り上げることです。わたしたち自身、生きることが難しいときに神様に祈ると、神様ご自身が近づいてこられ、わたしたちの声を聞かれます。“わたしが、キリスト・イエスの愛の心で、あなたがた一同のことをどれほど思っているかは、神が証ししてください” イエス様がわたしたちの人生の道しるべであり、わたしたちが行くところ、居るところに、常に一緒にいてくださいます。

今日の福音の中で、ヨハネについて話があります。神様による人間の救いの計画で、ヨハネは聖書に出てくる人間で、イエスが来られる道を準備しました。

“主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ、谷はすべて埋められ、、、”  
では、この箇所背景はいつだったのでしょうか。それは皇帝ティベリウスの治世第十五年だったころでした。

場所は？ ヨルダン川です。

主人公は？ ヨハネ。

旧約聖書のイスラエルは神様の約束された地に着く前に、必ずヨルダン川を突き切らなければなりません。聖書の朗読箇所ではヨハネはヨルダン川で人々に洗礼をさずけていました。ヨハネの洗礼とわたしたちの洗礼とは違います。ヨハネの洗礼は悔い改めの洗礼だけで、この洗礼は自分の罪を悔い改める象徴です。自分の過去の誤りと罪を洗い去ることで、でもこの洗礼は自分が、神様のおられる近いところに行きたいという、一歩が始まることです。

ヨハネが備えたことは、すべてイエスが来る前にしています。そして、イエスが来られたら、イエスは罪をゆるすことをして完成されます。神様への愛が深まり、わたしがどうしようもない罪とあやまちを犯しても、イエスこそわたしたち人間の罪をゆるされます。人間として自分の罪を犯して、神にゆるされることにより、わたしは新しく生まれ変わった人間になりました。自分の過去をも捨てなさい。でも、人々は自分の過去を思い出し、更に何回も過去と同じことを慄れて、同じミスを犯しました。それでも神様がゆるされることは三つあります。洗礼と悔い改め、ゆるしです。

そしてヨルダン川の出来事は意味が深く考えさせられます、自分は新しい人間になり、そして過去のあやまちを捨てなければならない、それで、神様の前で許されることを願います。自分と神様の関係をもう一度結ぶことができます。そうすることで自分とほかの人の関係もつなぎ合わせることになります。しかし、この象徴は自分のイニシエーションだけです。イエスが来ることは神様のイニシエーションだと思います。

ゆるしは、自分のことを忘れて、罪の鎖を解放して、自分の心からの謝罪と罪を悔い、気持ちを改めたら、この罪は清めることができます。